

## 第4回 清瀬市新庁舎建設基本計画策定委員会 議事録（要旨）

日 時： 平成26年3月11日（火曜日）18:00～20:00

場 所： 男女共同参画センター 4階 会議室1・2

事務局： 企画部企画課公共施設整備係

出席者： 委員9名（澄川委員、齊藤委員、山本委員、平倉委員、波澄委員、  
下嶋委員、中川委員、林委員、八代田委員）

その他5名（企画部長、企画課公共施設整備担当課長、他3名）

コンサルタント3名（吉村、上原、一戸）

欠席者： 委員3名（三井所委員、小山委員、菊間委員）

傍聴者： 3名

### 会議次第

1. 開催の挨拶
2. 前回議事録確認
3. 配布資料説明
4. 議事  
(1) 新庁舎に求められる機能について
5. その他
6. 閉会

### 配布資料

- ・ 本日次第
- ・ 第3回委員会議事録（案）
- ・ 【資料1】 清瀬市新庁舎建設基本計画〈素案〉
- ・ 【資料2】 市庁舎建て替えに関わる市民意見集約状況  
（平成26年2月末現在）
- ・ 【資料3】 新庁舎建設市民ワークショップ 企画書

## 審議経過

### 1. 開催の挨拶

委員長より開会あいさつ。

### 2. 前回議事録確認

委員からの前回議事についての意見、質疑は特になし。

### 3. 配布資料説明

(コンサルタント)【資料1】について説明。

(事務局)【資料2】【資料3】について説明。

### 4. 議事

(委員) 基本方針について、市の職員の方の意見をアンケート実施すると聞いているが、原案では基本方針全てに「市民」という言葉が並べられていて、市民向けに委員会があるのかと感じる。これを見ていると原発の建設を思い出す。市民向けのサービスばかりをアピールし、市民の理解を得たとして、色々な施設を建設した経緯と似ている。本当に大切な事は、原発の安全性や事故時の対処方法であるべきだった。

市民にとって、どうしたらいいかを考えることは最優先ではあるが、それと同時に、職員の意識改革や新庁舎の建設によって職員がどのようなことができるようになるかをしっかり記述すべきと思う。「市民」「行政」「建築」の三本の柱から考えていくべきと思う。この考え方で編成し直したものを見てみたい。

また、敷地の確定は何時なのか。農協の敷地を取得する資金の準備は出来ているのか。スケジュールを考えると、腹の探りあいをしている段階ではないのではないか。今年の6月くらいには見通しが立っていないといけないと思う。

それと、現庁舎の造りは、明らかに議会が上位にあって、下に行政がある姿形をしている。これまでの議会の位置付けと、これからの議会のあり方は、国会をモデルにしないで頂きたい。平場にして多目的に使えるようにするような話もあったが、議員の方の意見も聞いて、どのようにできるのか、決定していきたい。

バリアフリーについて、階段とスロープを併設するなど、明らかに障害者対応をしたような形ではなく、これから新しく作る庁舎については、既存改修のような形ではなく、気が付かない内に誰もが使用できるような庁舎づくりを目指して欲しい。

(委員) 私たちは市民の代表として来ているのであって、みんなの意見を全て取り入れていたらまとまらない。委員会ではみんなの知恵を出し合って大方の方針を考え、それに市民、職員などからの不便さを聞き、意見を取り入

れながら進めていくべきだと思う。

【資料1】の説明で、コンサルタントから敷地の範囲は流動的であったが、他敷地の可能性はあるのか。【資料2】の市民意見にも他敷地での建設の意見があったので、はっきりさせてほしい。

また、議会については、現状の議会の形式である必要があるのか、疑問がある。

バリアフリーについては、近年の庁舎の事例程度で十分と思う。あえて特別なことを考える必要はないと思う。

(委員長) この委員会は設計をする委員会という位置付けではなく、庁舎整備の方針を決めるための委員会である。職員アンケートは実施して欲しい。

(事務局) 敷地については最初の委員会でお話ししたように、昨年6月に市で決定した「耐震化整備方針」で、現所在地建替えと示されています。流動的というのは、隣接地である農協の移転計画に伴い、土地の取得が発生する可能性があるということです。今後の検討の根本に関わる内容なので、動向については出来る限り早期にお伝えします。

職員アンケートは4月に実施予定で考えており、6月に委員会に取りまとめたものを提示する予定です。

(委員) 基本理念は確かに頭の部分に「市民」というワードがついているが、内容的にはあっていると思う。

(コンサルタント) 「市民」という言葉には職員も含まれると思います。「効率的で使いやす柔軟な庁舎」などはどちらかという、職員が働きやすいということを意識した項目となっています。次回以降の議論の中で市民目線の意見と職員目線の意見をそれぞれ盛り込んでいければと考えています。

(委員) 農協以外の隣接する民地はどのように考えているか。

(事務局) 駐車場とパン屋さんの建物と文房具屋さんの敷地についても、農協の状況とあわせて話をしているところです。

(委員) いつ頃が目安なのか。

(事務局) 農協と移転先の地主さんとの話し合いもありますので、いつまでという期限はわかりません。

(委員) こちらの計画上、いつまでに話がまとまっていなくてはならないのか。

(委員) 現庁舎の日影が既存不適格である状態を考えると、現敷地に建替えても面積はあまり確保できない可能性がある。土地を取得して庁舎の面積を広げることが出来れば、計画の可能性が広がる。

(委員) 農協の隣の駐車場は農協のものか。

(事務局) そこは別の地主さんのもので交渉しています。

(委員) やはり基本理念の「市民が」という言葉が引っ掛かる。「誰もが」という言葉を使えばいいのでは。

「市民協働・市民参画による交流の生まれる場」という文章があるが、市民だけが集まるということではなく、市政に参画できるということが重要。「市民のつながりが広がる庁舎」ではなく「市民とのつながりが広がる庁舎」という表現がいいと思う。

(委員)「職員」という言葉を入れたほうがいい。職員は市民でもあるということだが、「市民」の意味が違う。市民と、行政官として働いている人は違うので区別すべきだ。

(副委員長) 基本理念の6項目はいいと思うが、それを無理に3項目にまとめる必要はないのではないかと。6項目をバラバラにしておいて、内容を明確にしたほうがいいのかと思う。防災拠点とセキュリティの問題は、「市民が安心して利用できる」という概念とは違うと思う。

(事務局) 素案の内容については、すぐに確定はしないと以前もお話しさせていただいております。今回頂いたいろいろな意見を反映させ、再度練り直したものをお示いたします。また、今後議論が進んでいく中で、理念に立ち戻って調整することも考えています。

先程委員から意見のありました、組立を変える件についてはいかがでしょうか。

(委員) 組立を変えると構成がバラバラになってしまう。

(委員) 一回やってみてダメなら元に戻せばいいと思う。一回やってみないとわからない。言葉だけを変えても視点が変わらないと思う。

(委員) 良識のある計画であれば、「市民が」とか「職員が」という表現があってもなくても、市民や職員をないがしろにしたものにならないと思う。「市民が」とか「職員が」とかの表現についてこだわるのは細かすぎるのではないかと。

(委員長) 本委員会で大まかな方向を取り決め、実際に設計段階で詳細は決めて頂くことになるので、そういった割り切りでいいと思う。

(委員) 先程意見がでたが、理念は6項目でいいと思う。上の3項目は必要ないと思う。

(委員) 私は、「職員」という言葉は理念の中に馴染まないと思う。基本理念の「効率的で使いやすい柔軟な庁舎」の部分が職員を意識したテーマになっていると思う。あえて「職員」という言葉は使う必要はない。

(委員) 私は現状の理念で文句はない。この次の段階の各機能についてのテーマに関心があるので、次に進んでいきたい。

(委員長) 委員会においては、あまり職員の意識をどうするかまでは言うこ

とはできない。

(委員) 上の3つのテーマはない方が、かえってすっきりすると思う。

(委員) 今の構成がいいと思う。

(委員) 私も現在の理念で問題ないと思う。職員については市民のために働いているということなので。

(委員) 3つ残すのであれば、頭に「市民」がとつくと色々あるので、「誰もが安心・安全に利用できる庁舎づくり」「誰もが使いやすい効率的な庁舎づくり」「市民が誇りと愛着が持てる庁舎づくり」ではどうか。

(委員) 賛成。

(委員) 【資料2】の市民の意見だが、66名からしか回答がないので、幅広くいろいろな形で意見を取っていただきたい。

(事務局) 市民意見についてはワークショップや、本委員会の中間報告の市民説明会、パブリックコメント、本年予定している世論調査でも市庁舎の関係の項目を盛り込みたいと思います。

(委員) 市民ワークショップについて、参加者の男女比や年齢比について考えて頂きたい。若い人の意見や、女性の意見を意識的に集めるようにしてほしい。回数についても複数回行うことができれば良いと思う。

(事務局) ワークショップ募集定員は想定で20名としていますが、会場の都合が付く限りは来ていただきたいと考えています。現段階では4月と、意見が固まってきた後半の段階で行う予定を立てています。

(委員) ワークショップは誰がリーダーになって行うのか。

(事務局) 集まっていた市民の方でグループ分けをして、グループの中からリーダーを出していく形です。

(委員) ワークショップをやったことが無い人たちが集まって、短い時間の中での的確なワークショップに至るのか。

(事務局) 事務局とコンサルタントがファシリテーターとして各グループにつきまします。議題としては、現庁舎の課題の意見出しを行い、その課題の解決策を話し合い、本委員会の理念への意見につながるような意見出しをしていきたいと考えています。

(委員) やって見なければわからないが、2時間でまとめるのは難しいと思う。

(委員) まとめるという発想ではなく、ワールドカフェ方式など、意見がでてくる手法はある。

(委員) 20～40代の忙しい世代の意見については、ネットアンケートなどを行う方法もある。

(事務局) 現在考えているのは、市は公式ツイッターをやっており、フォロ

アーが1700人ほどいます。今回のワークショップの募集期間中に3回ほどツイッターで募集を行い、若い世代を取り込みたいと考えています。

(委員) 基本理念の流れとして、防災関連が一番上の項目になっているのはいいと思う。庁舎をただ壊れないようにするだけでなく、周辺学校との連携などインフラの整備についても考えるべき。

また、農協の敷地が確保できない場合など、必要な駐車場が確保できるのか心配なので、検討項目に入れてほしいと思う。

(委員長) 敷地の防災対策として、学校などの空地が多い部分に建設することはいいと思う。混雑した部分に便利だからと言って建設すると、そこが災害の中心になることも考えられる。

(委員) 車を運転しないので、庁舎を利用する際は自転車を利用している。現状は駐車場が足りていないのか。駐車場を整備するばかりではなく、キヨバスを拡充させるような発想の方がいいのではないか。

(事務局) 税の申告時期など、繁忙期は現在の区画している駐車スペースでは足りず、駐車スペース以外にも駐車してやっと足りている状況です。また、庁用車については、敷地外に駐車場を借りている状況であり、新庁舎建設の際は、庁用車も含めて敷地内に整備したいと考えています。

(委員長) 高齢化していけば、車の利用が増える。更に高齢化すれば、運転できなくなってバスの巡回も必要になっていくのではないか。

(委員) 市内の畑がどんどん住宅地になってきているので、人口は減らないかもしれない。これから清瀬はどんどん変わってくるのではないか。

駐車場については、近年の庁舎の事例では地下駐車場を整備している。予算が組めるのであれば、キャパシティを多めに取っておくのはいいことだと思う。駐車場以外にも資料置場などとして使うなど、いろいろな可能性があると思う。地下駐車場にしなければ、地上が駐車場ばかりになり、敷地に緑が確保できないのではないか。

(委員) 地下駐車場を整備すると建築コストが上がると思うが、現在の予算は地下駐車場を想定しているのか。また、公用車は何台あるのか。

(事務局) 敷地内の公用車は20台弱くらいで、来庁舎用は60台くらいです。平常時は現在の区画で足りています。繁忙期は75台くらい収容できるように増やさないと足りない状況です。敷地外の公用車も含めると、新庁舎においては、敷地内に約100台を収容したいと考えています。

また、予算については、整備方針を策定した際は、近年の庁舎整備事例の平均的な㎡単価で試算しています。プラン立てをして地下駐車場を何台整備するかなどの細かい計画はしていません。厳密に言えば駐車場の地下化の費用は含まれていないと考えて頂いて結構です。

(委員) 基本的機能の中でわかりにくい表現がある。「安心して利用できる窓口環境」と、「分かりやすく快適な窓口環境」は何が違うのか。

(事務局) わかりやすい表現に改めたいと思います。「安心して利用できる窓口環境」は個人情報の保護や、プライバシーの配慮など相談窓口の整備について意識しています。「分かりやすく快適な窓口環境」は庁内のサイン計画など、どこに何があるかなどわかりやすくすることイメージしています。

(コンサルタント) 今後具体的な議論をしていくための取り掛かりとなる文言ですので、具体的な議論を進めていく中でふさわしいキーワードを考えて頂ければいいと思います。また、ここに書いてある以外の切り口も出てくることもあると思います。

(委員) 初期投資だけではなく、将来に渡る建設費・維持管理コストへの配慮についても盛り込んではどうか。

(委員) 省エネ技術の積極的な活用とも、意味合いが少し違うと思います。

(委員) 「ICT技術の活用」とあるが、ICTという表現はわかりにくい。

(委員) ツイッターの登録者の年齢、性別などはわかるのか。

(事務局) ツイッターは、属性についてはフリーなサービスになっているのでわかりません。

(委員) 年代、属性のわかるサービスはいくらでもあるので、そういう所でやればどうか。

(委員) 震災時の避難場所などで、女性の方々が着替える場所がない環境におかれたと聞いている。そういう話を入れ込むとしたらどの項目にいれたらいいのか。

(コンサルタント) 他の自治体の事例で言うと、震災時に職員が24時間体制で対応にあたることを想定して、福利厚生機能も兼ねた和室などの仮眠スペースを設けるようにしています。避難している方々に対してどこまでスペース設けるのかは、議論の必要があると思います。

(委員) 「防災拠点」と書いてあると期待してしまう。

(コンサルタント) 全ての人を受け入れると言ってしまうと、庁舎規模がかなり大きくなってしまいます。実際の災害時はそのような活用をされても良いのですが、基本的なスタンスとしては、たまたま庁舎にいらしていた方や、庁舎周辺の人に対して避難の受入れをしますが、長期の避難に対してスペースを設けるようなことはあまりしません。

(委員) 短期避難にしても子連れや女性、高齢者に対する配慮をした視点がほしいと思う。

(委員) 「障害者が安心して」と書いてありますが、「障害者」と限定してもいいのか。

(委員) 議論の中にソフト面についての議論が入ってきてしまい、議論が違う方向にいつてしまっていないか。もっといい職員を入れてほしいなどというように、ソフト面についての意見は日々開催されている委員会や、市長や議員などによって改善していけばいい。ソフト面まで議論をしていたら収集が付かなくなる。

(事務局) 前回お渡しした資料の中で、具体的な方策の例として「一時避難への対応」と書いています。次回以降の具体的な議論の中で、例えば「会議室は一時避難時に女性用のブースや、高齢者用のスペースとして使えるようにすること」などと盛り込んでいけば、計画の中に反映していける部分だと思います。

(委員) 総務省から「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針(案)」というのが今年1月に出ていて、公共施設の全体的な適正配置をするように言われている。今回でなくてもよいが、市庁舎の中にどのような施設を入れるのか、今後検討していく必要もあると思う。市民の要望もあれば、市の方針もあることと思う。

(委員) サテライト的な形で分離することもある。委員会の最初の頃にどのような行政施設があるのかと言っていたので、結局そこに戻ってくる。

「清瀬らしさが感じられるデザイン」とあるが、大概どこの計画でも言っている。それがどのようなものを聞いても答えが出てこない。「清瀬らしいデザイン」が本当にあるのであれば、どんなものか。本当にあるのであれば大事なことだと思う。清瀬らしさなのか、未来へ向けてのデザインなのか、過去の文化や歴史から出てくるデザインがあるのか、そういうのが出てくるといいと思う。

(委員長) 委員会で話が出た木造化や木質化など、その様なところが清瀬らしさにつながるのでは。

(委員) 清瀬はお金がないのだから、質素な建物でいいと思う。それも清瀬らしさだと思う。外観ではなく機能を優先するのも、清瀬らしいデザインだと思う。

(委員) 簡素で美しいデザインが一番だと思う。

(委員) 素材感を大事にするなども含め、一つの答えだと思う。

(コンサルタント) デザインとは見た目だけではなく、たとえば雪の多い地域であればそれにあった設計にするなど、その様なことを含めてデザインかと思います。清瀬はどのような特性があるか、どのようなものがモチーフに使えるかなど、今後の議論で検討して頂ければいいと思います。

(事務局) 一つの例として、清瀬らしさを誇るものとして「けやき通り」があると思います。「けやき通り」と一体化した計画なども清瀬らしさを出せる

のではないのでしょうか。

(委員長) 凝ったデザインの建物は雨漏りがしやすい印象があるので、そういった建物はやめてほしいと思う。

(委員) 「開かれた議会」とあるが、逆に言うと現在は開かれていないということなのか。議員の方や、職員の方はこの表現で問題ないのか。見る人側の姿勢の問題ではないのか。

(事務局) 現在子連れで傍聴する場合は、子どもが騒いでしまうと退室して頂いています。そういった面で誰もが利用しやすい環境ではない状況です。また、議場開放の観点で、議場以外での利用方法なども含めて「開かれた議会」という表現にしています。

(委員) 「障害者が」という言い回しではなく、「障害がある方などが」という表現にしたらいいのではないか。

(委員) 「誰もが安心して」と書いてあれば、それでいいのではないか。

(委員) 「障害者や高齢者などが」という表現にすればやわらかい表現になると思う。

(コンサルタント) 前回の委員会の中で、「ユニバーサルデザインの導入」という表現についてわかりにくいという意見がありました。その時に、障害者が使いやすければ、当然誰にでも使いやすいというお話がありましたので、それを踏まえ今回のような表現にしました。確かに限定的な表現になってしまいましたので、表現については再考したいと思います。

(委員) 本来ユニバーサルデザインは、誰もが安心して使えるのが趣旨で、障害者用のトイレをつくること自体がユニバーサルではない。

(委員) そうは言っても障害者が優先的に使えないとなかなか使えないという現実もある。

(委員) 男性のトイレにもおむつ替えシートがある施設が先進的なのではないか。

(委員) 誰でもトイレなどでは、右手しか使えない人や左手しか使えない人の配慮として、階ごとに右に引く扉、左に引く扉を設置している例もある。

(委員) 次回の委員会は防災拠点の話なので、耐震、制振、免震構造についてのメリット・デメリット、費用などについて比較できる資料を用意して頂きたい。

## 5. その他

(事務局) 次回新庁舎建設基本計画策定委員会の日程について説明。

## 6. 閉会

(委員長) 閉会の挨拶